

第5章 部門別戦略

畜 産 ~生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現~

《目指す姿》

- ◆ 生産性の向上と県産飼料の生産・利用が進み、収益性の高い畜産経営が実現している。
- ◆ 耕畜連携の進展や飼養管理の省力化、家畜疾病対策の強化が図られ、持続可能な経営が展開されている。
- ◆ 多様な販路が確保され、県産畜産物の認知度が向上し、需要が拡大している。



スマート技術を導入した飼養管理



第5章 部門別戦略【畜産】

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

1 酪農

《現状と課題》

- ◆ 年間労働時間が長く、休みが取りづらい労働環境が要因で、生産者の高齢化や後継者不足が進んでいるため、労働負担の軽減を図るとともに、労働力となる人材の育成・定着を促進する必要があります。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の流行や物価上昇等により生乳の消費が落ち込み、依然として、需給が緩和しているため、生乳の需要拡大が必要です。また、酪農家が減少していることなどから、1頭当たりの生産性の向上を図るなど十分な収益を確保することができる経営への転換が必要です。

《主な取組》

- (1) **スマート農業技術や外部支援組織等の活用による生産の効率化・担い手の確保**
 - ◆ 労働負担の軽減及び飼養管理・繁殖管理の効率化を促進するため、哺乳ロボットや発情発見システム等のスマート農業技術の導入・普及を推進します。さらに、労働力不足の解消や労働時間の短縮に向け、労働力を補完する酪農ヘルパー・飼料生産コントラクター等の育成・強化を図ります。
 - ◆ 県育成牧場は老朽化が進み、畜舎構造も旧式の施設であるため、生産者が求めるきめ細やかな飼養管理が困難な状況となっていることから、より利用しやすい施設となるよう、受託業務の内容や畜舎の整備等の検討を進めます。
 - ◆ 後継者へスムーズに経営が継承されるよう経営指導等を実施とともに、就農者の定着に向けて、既存の経営資産の有効活用も含めた施設・機械の整備及び補改修を推進します。

第5章 部門別戦略【畜産】

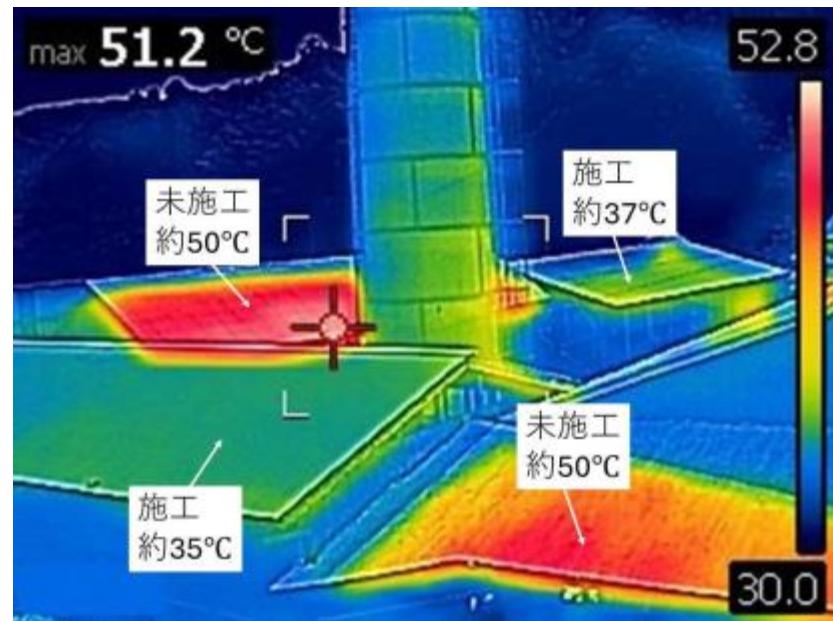
～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

1 酪農

《主な取組》

(2) 1頭当たりの生涯生産性の向上

- ◆ 乳牛の遺伝的能力の改良スピードを加速させるため、遺伝情報を活用した高能力牛の選定を支援するとともに、牛群検定データに基づく経営改善及び乳牛改良に自ら取り組む中核的経営体の育成を図ります。
- ◆ 夏の高温により乳量及び繁殖成績が低下していることから、暑熱ストレスを軽減する対策の検証及び推進を図るとともに、飼養管理技術等の生産技術の開発に取り組みます。



畜舎屋根への遮熱塗料の施工効果

第5章 部門別戦略【畜産】

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

2 肉用牛

《現状と課題》

- ◆ 繁殖和牛の頭数や平均分娩間隔が全国平均を下回っていることから、和牛産地として更なる生産基盤の強化が必要です。
- ◆ 産地としての認知度が市場に浸透していないことから、安定して出荷できる生産量を確保するとともに、肥育技術や肉質を向上させる取組が必要となっています。



優良な繁殖雌牛を競う和牛共進会

《主な取組》

(1) 先端技術の活用等による生産性の向上

- ◆ 繁殖成績を向上させるため、発情発見システムや分娩監視装置等のスマート農業技術の導入を支援します。また、和牛の増頭に向け、優良な遺伝的能力を持つ繁殖和牛の増頭を進めるとともに、和牛受精卵を地域内で流通させる取組や、酪農経営の乳牛に移植する取組を推進します。
- ◆ 生産コストの削減に向けた肥育期間の短縮や、肉質の向上を目指した飼養管理技術指導を行います。

(2) 選ばれる牛肉の生産

- ◆ 遺伝情報を活用した、繁殖和牛の遺伝的能力の改良及び優良な後継牛の確保を支援するとともに、高品質な牛肉を生産するため、おいしさを示す指標である「脂肪の質」について、枝肉での分析や遺伝的能力を評価する取組を推進します。
- ◆ 畜産クラスター事業等の活用により、経営規模の拡大や生産性の向上を推進し、品質の高い牛肉の安定した生産量の確保を目指します。

第5章 部門別戦略【畜産】

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

3 養豚・養鶏

《現状と課題》

- ◆ 企業化・大規模化が進展し、生産力の高い経営が確立されていますが、近年、豚熱・高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が頻発し、畜産経営に甚大な被害を及ぼしていることから、防疫体制の強化が求められています。
- ◆ 大規模化の進展とともに、労働力1人当たりの管理頭羽数が増加しているため、省力化技術の導入が必要となっています。



急性悪性家畜伝染病の防疫対応に係る
民間事業者向け研修会の開催



野鳥忌避レーザーを搭載したドローンの整備
資料:株式会社NTT e-Drone Technology

《主な取組》

(1) 家畜疾病の発生予防

- ◆ 農場への巡回指導等を通じて、飼養衛生管理基準の遵守徹底を推進します。また、ウインドウレス鶏舎や飼養衛生管理基準を遵守している農場においても、高病原性鳥インフルエンザが発生していることから、国と連携しつつ原因究明に取り組むとともに、鶏舎入気口フィルターや細霧装置、野鳥忌避レーザーの整備など効果が見込まれる発生予防対策の導入を支援します。
- ◆ 豚熱の発生を防止するため、豚熱ワクチンの適期での確実な接種と県内全域で野生イノシシの検査を実施します。また、豚サーコウイルス感染症や豚繁殖・呼吸障害症候群(PPRS)等の生産性を低下させる慢性疾患について、ワクチン接種や農場の衛生管理を指導するとともに、遺伝的に抗病性を高める改良技術を活用し、種豚の能力向上を目指します。

第5章 部門別戦略【畜産】

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

3 養豚・養鶏

《主な取組》

(2) 家畜疾病のまん延防止

- ◆ 高病原性鳥インフルエンザ等の発生時における農場内作業や後方支援拠点の運営等について、民間事業者の活用を進めるため、事業者向けの手引きの作成や研修会を開催します。また、大規模農場における発生や連続・同時発生に備え、必要資機材の備蓄を増強するとともに、効率的な処分方法の導入を図ります。
- ◆ 分割管理の導入を希望する農場に対し指導を行うとともに、必要に応じ施設整備への支援を行い、発生時の被害と感染拡大リスクの低減を図ります。
- ◆ 汚染物品の迅速な処理を可能とするため、市町村や関係団体と連携し、対応可能な焼却施設の事前確保に取り組むとともに、レンダリング装置の設置場所について、生産者自らが確保する取組を支援します。

(3) スマート農業技術等の活用による飼養管理の効率化

- ◆ 畜舎洗浄ロボット、豚体重推定システム等の導入を支援し、飼養管理の効率化による生産性の向上や省力化を図ります。



畜産総合研究センターで開発協力した畜舎洗浄ロボット(試作機)

第5章 部門別戦略【畜産】

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

4 飼料・環境

《現状と課題》

- ◆ 物価高騰や円安の進行等により、輸入飼料価格の高止まりが続いていることから、持続的な畜産物の生産の実現に向け、県産飼料の安定的な生産・供給体制を構築する必要があります。
- ◆ 家畜排せつ物の不適切管理は、水質汚濁や悪臭等の原因となることから、環境に配慮した処理施設や機械の整備、耕畜連携の推進など、環境負荷の低減が求められています。
- ◆ 家畜ふん堆肥の供給量には地域差があるため、広域での堆肥流通を図るなど、地域的な偏在を解消する必要があります。



家畜の飼料となる青刈りとうもろこしの収穫

《主な取組》

(1) 県産飼料の生産・利用拡大

- ◆ 飼料生産に必要となる播種機や収穫・調製機等の導入支援を行うとともに、飼料生産コンタクターの育成・強化を推進します。また、エコフィードを利用している畜産農家に対し、現地指導や情報収集を行うとともに、事例集の作成や研修会を開催することで、未利用資源等の利用を推進します。

(2) 環境負荷低減に向けた取組の推進

- ◆ 臭気対策や水質保全など畜産環境の向上に係る施設整備に対して支援を行うとともに、耕種農家と畜産農家が連携し、飼料作物と家畜ふん堆肥を循環させる耕畜連携の強化を図ります。
- ◆ 家畜ふん堆肥の地域内流通に加え、広域流通を促進するための機械等の導入を支援し、地域間における堆肥の需給ギャップの解消を図ります。

第5章 部門別戦略【畜産】

～生産性や持続性の向上による、稼げる畜産経営の実現～

5 販売

《現状と課題》

- ◆ 希望価格帯の二極化や健康志向の高まり等、多様化する消費者ニーズに対応するため、ターゲット層を明確にした販売戦略や需要先に対する供給力強化、県産畜産物の認知度の更なる向上が求められています。



県産豚肉 (チバザポーク)



日本酪農発祥の地の記念碑

《主な取組》

(1) 県産畜産物の消費拡大

- ◆ 関係団体、量販店、レストラン等と連携し、県産の牛乳・乳製品や豚肉加工品のプロモーション、県産牛肉・豚肉・鶏卵等のPR活動を推進します。

(2) 流通の合理化・輸出の拡大

- ◆ 食肉流通の合理化を図るため、高度な衛生水準や輸出にも対応可能な食肉センターの再編整備に向けた取組を推進します。
- ◆ 県産鶏卵の輸出拡大に向け、事業者が取り組む海外における市場調査や販売促進活動を支援します。

(3) 特色のある畜産物の生産・開発

- ◆ 食の多様化や消費者ニーズに応じた付加価値のある畜産物を提供するため、おいしさなどの評価手法の開発に取り組みます。
- ◆ 「日本酪農発祥の地」等の地域資源を有効に活用して、地域の活性化や畜産物の付加価値を創出する取組を推進します。